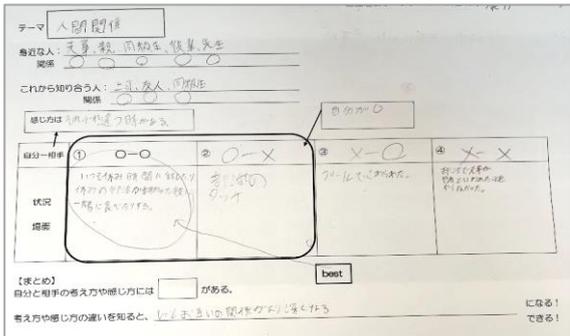


自分と他者との感じ方や考え方の違いを認識する学習					
学校種	聴覚支援学校	学年	高等部 1 年	障がい種	聴覚障がい
対象の児童生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> • ある程度口話でコミュニケーションをとることが可能。 • 相手に応じた対応ができる。 • 必要性がないと、自ら情報を獲得することが難しい。 • 気が散りやすく、集中が持続しない。 • 整理整頓が苦手であり、忘れ物が多い。 • 時間的、空間的な視野が狭い。 • 見通しがもちにくく、優先順位をとらえにくい。 • 体を動かすことが好きであり、陸上部の活動に意欲的である。 • 意思の表出に積極的である。 				
短期目標	<ul style="list-style-type: none"> • 期日や忘れ物、自分が心を許した相手に対する距離感に関して、自分がつまずきや難しさを感じるパターンを知り、そのような状況になったときの対処法を知る。 				
必表な項目の選定 (6区分27項目)	<ul style="list-style-type: none"> • 人間関係の形成 (2) 他者の意図や感情の理解 (3) 自己の理解と行動の調整 • 環境の把握 (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応 (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動 (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成 <p>※ これらの内容を関連付けて指導内容を設定した。</p>				
具体的な指導内容	<ul style="list-style-type: none"> • 自分と他者との感じ方や考え方の違いを知り、適切な距離感の必要性を考える。 				
単元(題材)名	『感じ方や考え方の違いを認識する』			指導形態	個別
単元(題材)の目標	自分と他者との考え方や感じ方に違いがあることを理解することができる。				
単元(題材)の計画	1 考え方や感じ方の違いとは		1 時間 (本時)		
	2 アンケートづくり・アンケートの実施		3 時間		
	3 アンケートの集計と分析		2 時間		
	4 まとめ		1 時間		
指導の実際	<ul style="list-style-type: none"> • 自分と相手とで感じ方が同様、または異なる状況や場面を 4 つのパターン (○-○、○-×、×-○、×-×) に分類し、具体的な場面を振り返った。  <ul style="list-style-type: none"> • 状況の把握が難しいことを想定し、立場に沿った感じ方を考えることができるよう、立場カード(「相手」「自分」の持ち札)を用いた。  <ul style="list-style-type: none"> • これまでの自分の発言や言動を振り返り、自分が良好だと感じる場面には「自分だけが○、自分と相手の両方が○」の 2 種類あることを整理した。また、自分も相手も良好な関係が一番良いと考えていることが共有できた。 				